

学生自動車研究会「Tour of Auto Parts×KYB」の実施報告書

企画担当： 日本大学	伊藤 大貴
神奈川工科大学	藤原 誼紀
神奈川工科大学	山之内 晶

1. 実施概要

日程：令和4年3月2日(水) 13:00～16:00

場所；ZOOM

参加人数：学生13名(アンケート回答者 8名)

KYB株式会社 井関執行役員 他30名
部工会事務局 持丸、日高

11月 リハーサルは2度行う予定
フライヤーを変更予定

12月 本番は2022/3/2に確定。本番はカジュアルな服装で。藤原,山之内が追加で企画担当者。

2月 リハーサル
2/14 現地；伊藤 オンライン：藤原,山之内
2/24 現地：伊藤,藤原 欠席：山之内

3月 3/2 無事本番を迎えることができた。

2. KYB 企画 経緯

2020年

8月 訪問型、バーチャル開催、企業の見学施設の見学会の検討を開始

9月 開催日は2020/11/28か2021/1/31を予定

10月 開催日は2021/1/31に決定

11月 KYB株式会社に決定
部品工場見学会は毎年の恒例行事として設置

12月 開催日を2021/1/31から2021/2/2へ変更

3. 当日のプログラム

- 第一部 挨拶 会社紹介
- 第二部 KYB史料館見学ツアー、質疑応答等
- 第三部 製品開発秘話、モータースポーツ活動紹介等
- 第四部 社員座談会、KYBイベント紹介等

2021年

1月 見学館が閉鎖されてしまったため延期

4月 企画前担当者である橋本さんから日本大学伊藤が企画を引き継いだ。

5月 6月に企画案を出し、7月頭に募集開始が目標。実施日は8月中旬～9月初頭が目標。募集対象は自技会の学生委員

6月 開催日を2021/9/3に設定

時間：13:00～16:00

場所：株式会社KYB 相模大野

形式：WEB(関係者のみが訪問)

7月 フライヤーを作成。参加人数95名迄

8月 緊急事態宣言により開催を延期する。

延期日は2月中旬を想定。

KYBと部工会との月1回の会議を行う。

9月 大まかなプログラムが決定

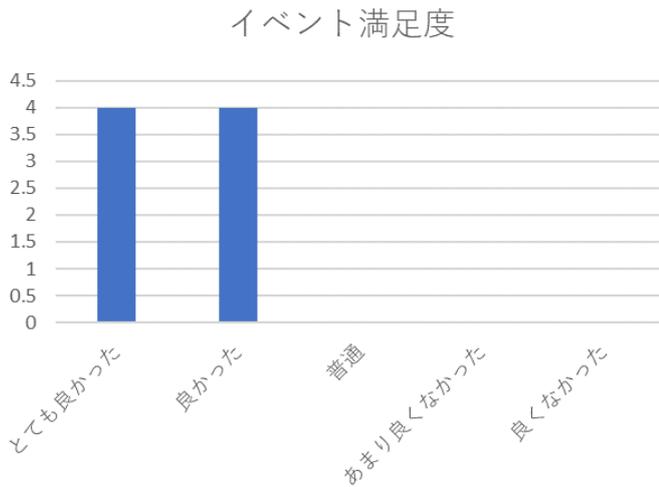
4. 学生に対するアンケート調査結果

今回のイベントに参加した学生に対してアンケートを行った。

対象の学生13名のうち8名より回答があり、回答率は62%となる。

以下にアンケート結果をグラフとしたものと各設問に対する意見を示す。

Q1 イベントの満足度はどうだったか？



イベント満足度については 5 段階評価中、上位 2 項目選択率が 100%であった。イベントの継続実施についてもアンケート回答者全員が希望している故、本イベントのクオリティが高かったことが裏付けられる。

Q1 の意見

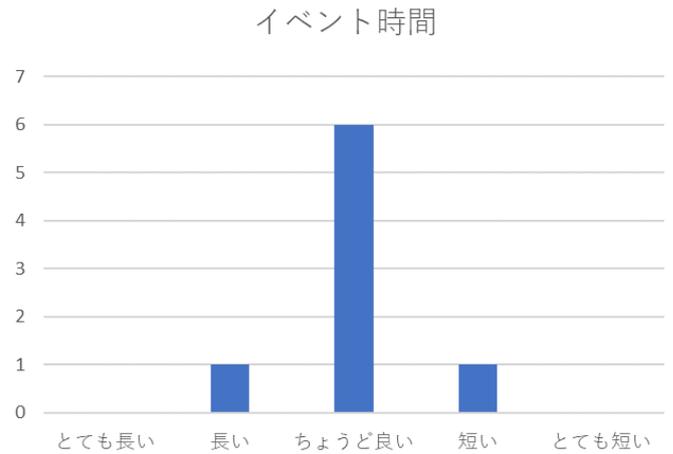
とても良かったと回答した人の意見

- ・会社の概要やどういう人がいるのかを知ることができた。
- ・ショックアブソーバの事や、モータースポーツの事を知れて知識が広がったのと、貴社の製品にとっても興味が沸きました。
- ・紹介動画がテレビ番組のように作られており見ていて面白かったから。
- ・オンラインでありながら KYB の魅力が伝わる企画になっていたと思う。

良かったと回答した人の意見

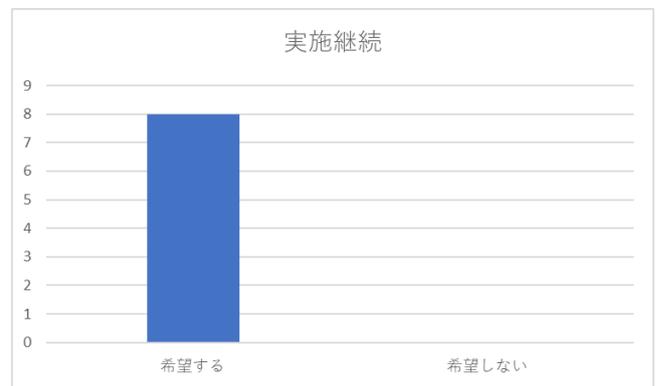
- ・KYB の事業内容について深く知ることができた
- ・質問に対して、今後就活するときに役立つご回答をもらいましたが、もう少し質問をしたかった。次の機会があれば是非参加したいと存じます。
- ・知らないことをたくさん知ることができた。
- ・実際にミュージアムを回りながら説明していただき、実際に行ったような感覚になった。

Q2 イベント時間の長さはどうだった？



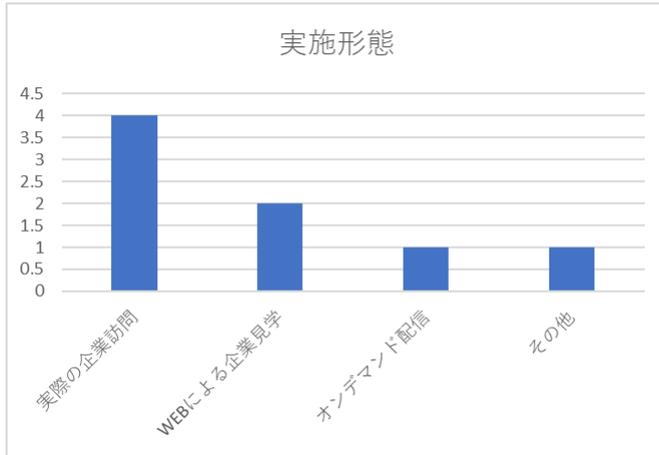
3 時間という長丁場ではあったが、そこを踏まえても参加した学生から程よい時間だったという意見いただき内容の濃いイベントだったことが伺える。

Q3 今後もイベントの実施継続を望むか



8 人中 8 人の学生から次回以降のイベントの継続の要望を得ることができた。次イベントでは今回の内容を参考によりクオリティの高いものにしていきたい。

Q4 実施形態はどうだった？



半数の学生が実地でのイベント実施を望んでいることが分かったが、思ったよりもオンラインでの開催を望む声も多かった。コロナの影響でPC1つあればなんでもできるようになり、その楽しさを知ったのが原因であると考える。

5. イベントの様子



5. まとめ

- ・次回以降開催するとしても、採用活動情報解禁前で、情報収集時期である10月ごろにイベントの実施を検討したい。
- ・自動車技術会の学生会員2,000名に対するイベント案内効果は0.05%と低く、イベント案内については今後、代替策の検討が必須となる。
- ・2020年4月に本イベントを企画した時は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下で外出できる状況では無く、工場や施設見学会はとても貴重な機会であった。その頃からの変化として、今回のイベントの学生へのインセンティブがズレ、弱くなっていた可能性がある。今後はイベント参加によるインセンティブを受け入れ企業等と協議する必要がある。

6. 謝辞

平素より大変お世話になっております。日本大学大学院の伊藤です。今回イベントにご参加いただいた皆様と関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。お陰様で盛会のうちに終了することができました。今後とも同様のイベントを開催していこうと考えておりますので、その際は奮ってご参加ください。